

## インターバンクの声（2014年10月22日）

ちょうど一週間ほど前の10月15日に105円前半まで値下がりが進んだドル円相場は、世界各国の株式市場の不安定な動きと落ち着き難い金利状況も相俟って、そう簡単にそれまでの円安バイアスが掛かった相場に戻ってくれない。まだ2ヵ月以上も残っているにも関わらず、市場でも年内は10月はじめに付けた110円台の高値を超えることはないだろうとの声も聞こえ始めている。ユーロ圏経済の弱さがいよいよもって明らかになりつつあり、9%近い成長を続けていた中国の成長率も7%台半まで落ち込んで来たのを見れば、ドル買いに安心感がでるのは自然に思えるが、肝心の米金利がなかなか上昇に転じないことに不安感があるせいだろう。来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）の成り行きが大きく影響することになりそうだが、一人勝ちだろうが何だろうが米経済の堅調さの継続と金利上昇が何と言っても物言いそうだ。今週中は106円台後半や107円前半に上昇しては利食いに押されてドルが売られる相場展開が続きそうな気配だ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。